



第17号
(発行所)

真宗大谷派
松岡山 廣讚寺
中村区城屋敷町3-30
TEL (052) 411-5301
FAX (052) 411-5341

御移徙法要とは (復興永代経によせて)

思い出される四十五年前のあの日。

父「寺に手伝いに行ってくれ」 私「なにするのだー」

父「行きやーわかる」 私「うん」

父に言われて、廣讚寺に行った。老爺、老婆が多かった。十年前から準備して、今日が落慶法要の日であった。老爺に袴を着けるように言われた。仮本堂で最後のおつとめをする。本尊阿弥陀様が寝てみえる。前に箱あり。老爺と二人で阿弥陀様を箱に納める。重たかった。箱には六本の棒があり、六人でつる。私は若いので足の方を持つ。足の方が先頭と言われ歩きだした。

後で分かったが、六人は地域の代表であったそうである。上の切猪飼義松・下の切秋田才治・西の切私・東宿松田光一・岩塚・花常六人の諸氏である。私以外皆々さまは今は亡き人ばかり。

仮本堂を出て、新築なった本堂の正面から入る。阿弥陀様を二人で箱から出し、定位置に運び大工にわたす。このように阿弥陀様を手でさわったことは、私にとって尊い思い出である。

この後の昭和四十四年に縁あって、私は廣讚寺の僧侶になった。

(和美)



廣讚寺本堂落慶法要 昭和39年11月

聖人のおことば

如来所以興出世

唯説弥陀本願海

正信偈の二句である。文字通りに口語文にすれば、

「如来が世に現れなされたのは弥陀の本願を説くためであった」となるが、もうすこし親切に理解しやすいように改めるとすれば「釋迦如来が人間の姿としてこの世に出現されたのは、阿弥陀如来の本願である念仏の教えを説くためであった」となる。仏は人を救うためにある。誰彼の区別なく平等に救って下さるのが仏の力である。われわれは平素、常にこのように思いこんでいる。

しかし、このような思考を一步前進すべきだと思う。

「仏があらわれたもうたのは、私一人のためである。

尊い仏の言葉（教典）の一つ一つは、われ一人にしら

しめんがためのものである。学舎まなびやは私一人のために建てられている。生徒を前にして授業をしてみえる先生は私一人のために大声を発してみえる。万物をはぐくむのでなくして、太陽は私一人を照らしてくれる。私を生むために母親はあつたのだ」と。

われ一人のためと思うとすべて頭が下がる。

別院奉仕に参加して

(都三)

五月二十七日午前九時から午後四時まで。

廣讚寺から三十人参加した。主題は「法要と御遠忌について」であった。「亡き人をしのびつつ如来の御教みおしえにあいたてまつる」喜びを感じた。

別院といえは祖母のみえに連れられて参詣した思い出が多い。バナナのたたき売りを見物しながら一本二本と食べたのが非常においしかった。そんなころはバナナは高級品の方でもあった。

五月五日

(丹羽女)

- 琵琶の音や 絵解聞き入る 春の昼
- 春愁や 善男善女 寺の門
- 沙羅の花 御堂の絵解 琵琶法師
- 風薫る 御堂に流る 琵琶音色
- 木苺を 抓みし昔の 返らざる

介護抄

(政女)

- 花たちは 折れてもやせても ちゃんと咲く
- 花たちは 今日きょうもいくつか 今日こんにちは
- おだやかかは こんな風よと すみれ咲く
- いかつても ふつふつしても 一家族
- 花たちよ すてきに咲いて 明日もきて



里芋日記

(五月十五日)

廣讚寺駐車場脇の畑に里芋を作付けできることになり、その育成の記録を寄稿することにした。

以前、民放で里芋づくり専業農家が紹介された。番組を見て、感心した点が二つあった。

一つは、里芋の背丈が人の背より高く葉の大きいこと。二つ目は、土が黒々として、かつとても軟らかそうで肥えた良い耕作地だったこと。その農家の人は「土づくりが一番大切だ」と説明していた。

稲葉地の農家の皆さんは「芋の茎や葉が大きいと葉に養分が取られ里芋が出来ない」と言っている人ばかり。間違った認識である。昨年の実績は背の高さが二畝、一株で四十〜六十個の芋ができた。やはり「根がしっかり生育してはじめて背も葉も大きくなる」ということが理解できた。

五月十五日まずは一畝の深さまで土を掘り、干し草と藁を敷き土を戻し三十〜四十センチの深さに鶏ふんを敷き詰め、種芋を四十センチ間隔に植えた。水をたっぷり毎日かけることにする。

(義光)

※行事予定(八月)

八月八日(土) 七時 同朋委員会・例会

十七日(月) 二時 常任委員会

十九日(水) 二時～四時 学習会

二十八日(金) 十時 二十八日講・女人講



福井 豊子

※行事予定(九月)

九月十二日(土) 七時 同朋委員会・例会

十三日(日) 八時 庭そうじ

(昼おとぎ後、解散)

十九日(土) 二時～四時 学習会

二十三日(祝) 十時 秋季彼岸会

説教 廣瀬純史師

廣讚寺講總會

おかみそり

二十四日(木)

二十五日(金) 三時 彼岸お勤め

二十六日(土) 住職説教

二十八日(月) 十時 二十八日講總會

女人講